

初夏とは思えぬ猛暑日に高田馬場駅前BIGBOX前に御集合いただきました6名様で出発した。



左より牧野さん・馬道・池澤さん・中島さん・関口さん・山崎さんの皆さん
(東京オリンピック2020を記念して植えた日比谷公園の百合の花の前にて・満開でした)

永田町駅で降り、国会議事堂内部の大隈重信侯の銅像を観たいと参議院が開院していますので衆議院側に回りました。時間が決められており、途中退出禁止とのことで断念。早稲田大学本部 キャンパスの演劇博物館から商学部～社会学部が井伊家の下屋敷ですがその上屋敷跡へ参りました。

途中、水彩画を描かれる一団の方にお逢いし芸術のすばらしさに感動した。屋敷跡地は今でも**日本水準原点**(1891明治24年・標高を決める基準点)や**時計塔**(1902明治35年スイス製時計贈呈され三権分立を称え三角形の形状に今は国産の時計:尾崎幸雄が時間厳守の方で贈られた)など日本の基準になるものが多数存在しています。(実は、電子基準点もありGPSを受信している)

坂を下り、井伊家の門外にあり江戸庶民に評判の良かった**櫻の井**は、元々は**加藤清正**の敷地であり美味しいとたいへん評判が良かったらしい。(お堀の土手には**柳の井**に続く石段が今も残る)1860(安政7)年3月3日大老井伊直弼が桜田門の手前で水戸脱藩士17名と薩摩藩士1名に暗殺された。



(左奥に井伊家上屋敷 右奥に桜田門が描かれています ちょうど警視庁前交差点付近です)

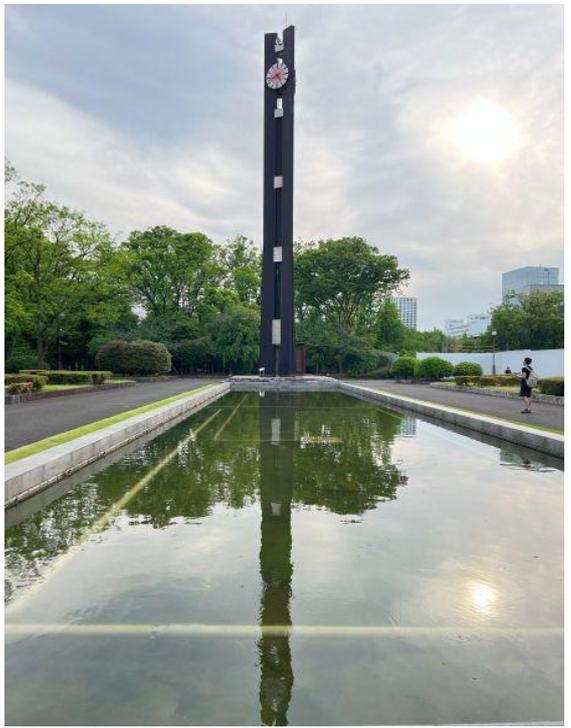
前代表の**小島**さんの故郷**上杉藩邸**に建つ**法務院赤レンガ棟**をバックに記念写真を撮り、**現外務省の黒田藩邸跡**へ。黒門と隣の安芸藩の赤門は、何かに付け競い合い両家の間の道が霞が関と呼ばれ同じ道幅で地名も今に残ります。弁護士会館の地は、南町奉行所に長年執務した**大岡越前宅跡**。

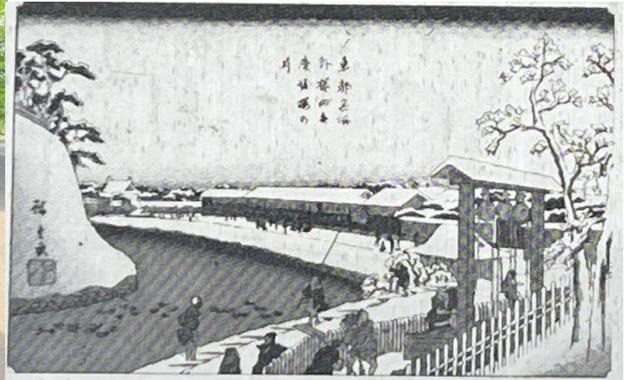
暑いと覚悟を決めていたが、実は、風も有りさすがに中央官庁街の街路樹が陽を遮り涼しい。日比谷公園で一休みして、東京五輪2020を記念して植えた百合の花は満開で見ごろでした。有楽町駅前の**南町奉行所跡**を見ていつもの高田馬場青龍で美味しいビールを飲み散会しました。



↑ 電子基準点
(東京都千代田区)

↑ 絵になるとはこうゆうこと
→ 時計塔の前で(皆さんの足が長いのは広角撮影だから)





←櫻の井跡(場所は移動している)
 ↑当時の絵図(右に三本の釣瓶が見える)
 (↓下の写真は現在のお堀と桜田門)



↑外桜田門(通称桜田門)内桜田門は現桔梗門

↑井伊家から桜田門(左上)へ籠で行く
 ↓の下辺り、日よけ地として空地になっていたところへ「直訴でござる」と書状を出して籠を止め短筒(ピストル)で撃った





米沢藩上杉家上屋敷跡に建つ法務院赤レンガ棟 5.15下見時の写真です



大名の江戸における上屋敷・中屋敷・下屋敷について説明します(散策時と違います 多謝)

上屋敷 藩主とその家族が江戸で過ごした 江戸城に登城することが多いので近いところにある

中屋敷 隠居した藩主や世継ぎの藩主になる人が過ごしたお屋敷(大きな藩しか持てない)

下屋敷 **別邸や接待用としてのお屋敷 庭園が素晴らしく逆に菜園で作物を作るところもある**

早稲田大学本部キャンパスは、演劇博物館辺りから商学部～社会科学部校舎辺りまで井伊家下屋敷跡地で南側は水稻神社の敷地でした。井伊家の領地内にあった大隈私邸跡の大隈庭園は、大戦で荒廃しましたが、できるだけ忠実に作り直したそうです。庭園内にある池は、神田川に流れ込む川から取り入れて作られたそうです。

ちなみに**文学部キャンパス**～国際医療センターまで**すべて尾張藩の下屋敷跡**です。

黒田藩邸上屋敷跡 現外務省

右の写真に残る石積は、当時のままで
広大な土地でした。絵図の霞が関の
道幅は、江戸時代のままです。



富士山

霞が関



広重「東都名所」より「霞ヶ関全図」。古くは中央の坂を霞ヶ関と呼んだ。坂の左の黒門が黒田家上屋敷、右の赤門が浅野家上屋敷である。両家は何かにつけ張り合っらしい



左の絵図の左が黒田藩邸(現外務省)の黒門が見え、右に安芸藩邸の赤門が見えます。中央の道が「霞が関」と言う名の道で今の道路幅は同じで地名としても残ります。

なお、絵図の奥に富士山がありますが、本物の富士山は西側にあります。

絵図には時々こうゆうご愛敬があるのも事実です。写実的ではなく文学的なのかも知れません。



写真右にある弁護士会館は、元南町奉行所で執事した大岡越前宅跡 街路樹が暑さを防いだ



日比谷公園の野外音楽堂近く 東京五輪2020に合わせ植えられた百合の花は香りも満開でした



木登り(ツリークライミング)だろうか？親子で楽しんでいました



↑南極の石



↓牧野さんの望遠写真カワセミ(左)と亀(右)

↑池のほとりのカメラマン



日比谷公園で一休み 緑の木立が快い ビールのことをお考えかも？



壁体緑化とモデルになっていた関口さん



休館中の日比谷公会堂 建替？との噂アリ



←日比谷門の遺構(裏伊達政宗終焉の地) →門前の花壇



旧GHQの本部となった第一生命館(中央)



旧南町奉行所跡(置かれている石は遺構です)



東京都市定田跡
南町奉行所跡

江戸町奉行は、寺社奉行、勘定奉行とともに徳川幕府の三奉行のひとつでした。その職掌は、江戸府内の行政・司法・警察など多方面に及び、定員三名で南北両奉行に分かれ月番で交代に執務していました。右奉行大岡越前守忠相は、享保2年(1717)から元文元年(1736)にかけて南町奉行としてここで執務をしていました。

南町奉行所は、宝永4年(1707)に番付場内から数寄屋橋門内に移転し、幕末までこの地にありました。その前回は、神楽町駅および東横街一帯に当たり、享保7年の発掘調査では、奉行所表門に面した下水池や役所内に設けられた井戸、土蔵などが発見されました。また、「大岡越前守御屋敷」と思われる荷札も出土しました。

「再開発事業」で、石組下水池の一部をここに再現するとともに、石材を事業地内でパブリックなどに活用しています。

所在地：千代田区有明2-1-1
調査決定：大正7年4月

「大岡越前守御屋敷」里札

江戸町奉行の地蔵の位置
工事終了後の井戸跡
井戸の位置

山崎さんは、町内会の大事な会合がおりとのこと。「ちょっと一杯だけでも」と申しましたが、だいな会合なのでとのこと。「じゃあ、いっぱい飲んでいったほうが良いのでは？」と皮肉を申し上りました。関口さんは、翌日朝から出かけなければいけないと稲酔の会は、四名さまでした。

学生時代は、ビール瓶にいっぱい入ってない栓の空いたビールが出てくる。残ったビールを詰めて出していた。その代り安いので、みんな知っていた(池澤さん談)。

ビールが進み、飲み、食べ、お話しして相変わらず安い。**建物は木造から三階建てに変わったがいつまでも学生気分にしてくれる青龍**でした。(すみません、写真ありません)

【俳句】相変わらず馬道の駄句です。

英会話写真撮り合う百合の花

*頼りの水野さんがいらっしゃらないので私が片言の英語で話しかけ

二人の写真を撮った。代わりに我々を撮ってくれたが奥様は日本人でした

翡翠(かわせみ)や岩から湖面見透して

ビルの街一息つくや夏木立

